

平成26年市長年頭所感

市の将来をしつかりと見つめて



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も皆様にとって素晴らしい年になりますことを心よりご祈念申し上げます。

さて、この2月で市長就任以来4年が経過いたします。

これまで、大変多くの市民の皆様ならびに関係団体の皆様のご協力をいただく中で、「安心・安全」、「産業振興」、「市民参加」を政策の基本とする魅力ある匝瑳のまちづくりに全力で取り組んでまいりました。

特に「安心・安全」面では、東日本大震災の経験を踏まえる中で、学校にお預かりする児童生徒の安全を第一に考え、耐震強度の不足する教育施設の建て替えにスピード感を持って取り組みました。その結果、八日市場小学校体育館や野栄中学校校舎など4校の体育館と校舎が完成。現在も八日市場第二中学校と椿海小学校の体育館の建て替えを行っているところであり、今後市民の安心・安全の確保を最優先に各種事業に取り組んでまいります。



匝瑳市長
太田 安規

八日市場小社会科見学より



昨年の流行語大賞のひとつに、「お・も・て・な・し」がございました。2020年東京オリンピックの誘致成功を象徴する言葉ですが、私もさまざまなイベントのたびに市民の皆さんの「おもてなしの心」を感じておりました。

その一例が昨年末のJR東日本「駅からハイキング」です。私自身今回も10kmのハイキングコースを歩きましたが、そのコースの見どころ各所に設けられた市民有志によるおもてなしコーナーでは、甘酒、豚汁、焼き芋の振る舞いや農産品の配布など、心からのおもてなしがなされ、市内外から参加された約700人の方々に大変喜ばれておりました。

2年続けてJR東日本の人気企画を誘致できましたのも、このような「おもてなし」の成果とっております。これは誰にでもできることではありません。匝瑳市民の持つ「お客様を大切にする気持ちと細やかな心配り」。これからも、おもてなしの心を大切にする匝瑳市でありたいと思います。

この4年間の市政運営を通じて、スポーツ分野から経済分野まで実に幅広いジャンルで活躍する市民の皆様の姿に、匝瑳市の潜在能力の高さを感じてきたところであります。

匝瑳市の良いところを見いだし、得意分野を伸ばしていくことが持続可能な発展につながるものと思っておりますので、そのポテンシャルを最大限発揮できますよう、市の進むべき方向をしっかりと見定め、熱い情熱をもって市政運営にまい進する所存であります。

本年も市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



平成25年に新築した豊栄小学校舎（左）、野栄中学校舎